

理事長ご挨拶

清々しい初夏を迎え、木々の緑も日増しに深くなってきました。皆様はお変わりありませんでしょうか。

今回は「小児の近視抑制」と「近視の治療法や問題点」についてお話しさせていただきます。



医療法人恭青会
理事長 生野 恭司

小児の近視抑制について

小児期に近視抑制をする意義についてお話していきます。

今では低濃度アトロピン、オルソケラトロジー、多焦点コンタクトレンズなど治療法も多彩になってきました。

私が小学生だった40年ほど前は、学校で眼鏡をかけている子供はクラスで多くありませんでした。

ところが近年は近視になる子供が40年前に比べて増えており、様々な問題が起こっています。その問題の一つとして、近視になる子供の低年齢化です。昔は幼稚園で眼鏡をかける子供は弱視治療などを除き皆無でした。しかし最近では、近視の眼鏡をかける子供が出てきています。昔は本を読むことが最大の近視の原因でしたが、幼稚園や小学校の低学年の時期では本を読む機会が少ないため、近視になる子供が少なかったのかもしれませんが。

しかし、今ではスマホなどデジタルデバイスに低年齢から接することにより、低年齢で近視が発生するようになっていきます。

低年齢で近視が始まると近視の進行速度が速くなるほか、将来的な近視度数は間違いなく進行し、大人になると強度の近視になる可能性が高くなります。

例えば近視が始まった時期が幼稚園と高校生では、年齢的な蓄積の差はありますが、その進行速度が随分と違う場合があります。

したがって、低年齢で近視が始まると、強度近視の抑制治療が必要となります。

近視は将来、網膜などの病気になることも

近視が完全に治ったり予防できる事はないため、海外では「近視治療」ではなく「近視コントロール」と呼ばれています。

従来は、近視になるとメガネやコンタクトをすることで矯正ができることから、病気の域に入らないのではないかという意見もありました。

しかし、病的でなくとも近視は将来の網膜などの病気になることも考え、小さいうちからできるだけ近視を抑制することが大切です。

お役立ち情報配信中! 医療関係者様限定!

恭青会では活動や疾患についてのお役立ち情報を医療関係者様限定に配信をしています。メールマガジン配信やニュースレター送付ご希望の方は下記恭青会HP内の登録フォームよりご登録ください。

医療関係者様向け
情報配信登録はこちら!

登録フォーム https://kyoseikai.com/contact_news/
右記QRコードからも登録できます。



配信予定

- メールマガジン電子版「慈育」：月2回
- ニュースレター「慈育」：3か月に1回

※一般の方向けにもメールマガジン電子版「慈恩」・ニュースレター「慈恩」で情報配信を行っています。詳しくは恭青会HPの「患者様向け情報」をご覧ください。

基本情報 はホームページよりご確認ください。

医療法人恭青会 <https://kyoseikai.com/>

いくの眼科 <https://ikuno-eye.com/>

あさいアイクリニック <https://asai-eye.com/>

活動情報 はSNSよりご確認ください。

Instagram 医療法人恭青会 @kyoseikai
院内の活動を掲載しています。

Facebook 医療法人恭青会 @kyoseikai.eye.doctor
理事長の活動や院内情報を掲載しています。

Twitter 医療法人恭青会 いくの眼科 @ikunoeye
診察時間のお知らせやご案内を掲載しています。

近視の治療法や問題点について

現在、科学的根拠のない民間療法やサプリメント、目を動かす等の運動療法などもありますが、治療としては望ましくありません。

世界的に科学的根拠（エビデンス）が確立している治療法は「低濃度アトロピン点眼薬」「オルソケラトロジー」「多焦点ソフトコンタクトレンズ」になり、この順で推奨していると考えていただいで結構です。

しかし、残念ながら日本では上記の三つの治療法のうち、標準治療となっているものは一つもなく、健康保険の適応ともなっていません。

日本は有数の近視大国で、その人口もますます増えてきています。

しかし、高価な抗がん剤や注射薬等に目がいきがちで、身近にある大きな問題になかなか注目されにくくなっています。

そのため、治療法の確立も遅れているのが現状です。世界的に近視が問題になっていることもあり、今後は日本でも注目度が上がっていくと考えられます。これにより右記の三つの治療法も標準治療になっていくと思われます。

そのため、私がお手伝いしている日本近視学会がしっかりとしたエビデンスを発信し、日本眼科医会・日本眼科学会とともに標準治療を作成していく予定です。

簡単な標準治療の説明を日本近視学会監修の「親子で学ぶ近視サイト」で発信しています。ぜひこの機会にご覧ください。

日本近視学会
監修

「親子で学ぶ近視サイト」について

日本近視学会監修による近視予防サイトです。近視人口は世界的に増加しています。近視だからとってあまく見てはいけません。運が悪ければ、失明になる可能性もあります。予防できる場合もあるので、しっかりと知識を身につけていきましょう。

親子で学べる近視サイト

🔍

スマホからもご覧いただけます。

親子で学ぶ近視サイト

きっずページも開設しています。

ぜひこの機会にお子様と一緒にご覧ください。

「親子で学ぶ近視サイト」きっずページ

パクラムはかせの
研究所

けんきゅうじょ

十三本院

いくの眼科

白内障手術 網膜硝子体手術 近視治療 眼瞼手術 眼科一般

〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目9-10 十三駅前医療ビル3階

☎ 06-6309-4930

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	▲	●	●	●	■	/
14:00~17:30	▲	◎	/	◎	●	/	/

●…受付可能。初診の方も診察できます。 ◎…受付可能。手術も行います。
▲…予約もしくは紹介状が必要となります。
■…第2・第4土曜は原則、院長診のため予約もしくは紹介状が必要となります。
その他の土曜は初診受付が可能です。
※初診・予約外の方は、午前・午後とも診療時間の15分前に受付終了です。
※予定外の診療により、時間変更になることがあります。
休診日/水・土の午後、日、祝日

いくの眼科分院

あさいアイクリニック

白内障手術 近視治療 眼瞼手術 眼科一般

〒661-0033 兵庫県尼崎市南武庫之荘1-19-26 サークルFビル3階

☎ 06-6423-8871

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	●	●	/	●	●	●	/
15:30~18:30	●	●	/	/	●	/	/

休診日/水、木・土の午後、日、祝日

編集後記

ニューズレター「慈育」6号をお届けいたしました。

次回は「緑内障」についてをお届けします。

編集部

発行元：〒532-0024 大阪市淀川区十三本町1-14-20 十三日和ビルV 3F 医療法人恭青会 管理部